

## 南稜高等学校 令和 6 年度（2024 年度）学校評価表

## 1 学校教育目標

三綱領のもと、知・徳・体の調和がとれた教育活動を展開し、高い知性と豊かな感性を持ち、心身ともに健康で、主体的に考え判断し、行動できる力を備えた地域や社会の発展に寄与する人材を育成する。

## 2 本年度の重点目標

## 1 学習指導の充実

- ・ 「南稜スタンダード」と分かる授業の推進
- ・ I C Tを活用した「主体的・対話的で深い学び」の充実
- ・ 観点別評価の適正実施
- ・ 読書指導の充実
- ・ 社会とつながる実学教育の推進

## 2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚

- ・ 「挨拶・時間を守る・服装の整備・掃除」習慣の定着
- ・ お互いの個性を認め合い、支え合うことができる集団の育成
- ・ 学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じた自主性と主体性の育成
- ・ 地域や異年齢集団との交流活動を通じた自己有用感の醸成

## 3 教育相談体制の充実

- ・ 個別の教育支援計画と指導計画による指導の充実
- ・ 自治体や関係機関との連携強化
- ・ いじめを許容しない雰囲気醸成
- ・ 自他の大切さを認め、豊かな人権感覚を育てる集団づくりの推進

## 4 安全・防災・保健・環境教育の充実

- ・ 生活安全、交通安全等の安全教育及び防災教育の推進
- ・ 危険を予知し回避する実践的行動力の育成
- ・ 健康教育の推進と検診後受診率の向上
- ・ 学校版 I S Oの推進

## 5 魅力ある学校づくりの推進

- ・ H Pの充実と最新情報の発信
- ・ 地域連携・中高連携・高大連携による教育の魅力化推進
- ・ 地域貢献活動の推進

## 6 働き方改革の推進

- ・ 心身ともに健康に働ける職場づくりの推進

## 3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	持続可能な学校運営	次年度以降も同様の業務を勤務時間内に終えることができる状況が継続できる。	昨年度と同様の業務を勤務時間以内に終えることができる。	各分掌部において、業務の平準化を図る。 業務の精選および職員の適正な配置。	B	○部活動指導員は今年度 2 人を任用した。また、教員の欠員補充として特別非常勤講師 3 人を任用した。 ○寄宿舎管理業務職員を 3 人採用した。 ○各部署において、業務の精選を行った。

	業務の改善	実効性のある業務改善の実施	「働き方改革を意識した業務遂行ができている」と回答する職員85%以上	ノー残業デーでの定時退勤を徹底させる。 整理整頓日（クリーンデー）を設定する。	B	○職員アンケートでは「南稜高校は働き方改革が計画的に推進されている」61.8%(52.2%)、「私は働き方改革を意識し、業務の効率化と計画性を図っている」78.9%(76.1%)で、働き方改革の推進、個人の意識や効率化と計画性ともに昨年度より改善した。
	働き方改革の推進	働き方改革の実践	時間外勤務の縮減（超過勤務平均時間の前年度比5%削減）	「働き方改革の推進方針〜できることからまず1つ〜」に沿った改革を推進する。	B	業務のICT化により、2学期は1学期より時間外勤務時間の平均が約10時間減少した。 3学期から放課後開始時間を15分間繰り上げて、時間外勤務時間の更なる削減に取り組んだ。
	募集定員の確保	入学者数の確保	全学科、定員80%以上の受検者確保と入学者数130人以上	ホームページやマスコミ等を活用して本校教育活動を周知する。 体験入学及び中学生保護者向け学校説明会を充実させる。	B	○4月から12月までのホームページの月平均閲覧数は4,000件を超えており、各学科ともに職員が熱心に最新の情報の更新を行った。 ○前期（特色）選抜志願者数は111名（102）名と前年よりは増加したが目標値は下回った。
学力向上	わかる授業の実践	授業改善	生徒の92%以上が「授業が理解できた」と回答する「わかる授業」の推進	公開授業デーや授業研さんの機会を通して、南稜スタンダードの観点から各教科及び学科内で授業内容の振り返りを図る。	B	○授業で「わかった」「できた」という達成感があると回答した生徒は約90%であった。今後も生徒への学習に対する興味・関心を高めるような工夫及び「南稜スタンダード」の理念に基づいた授業実践を継続していく。
			ICTを活用した授業実践を進め、教師のKI(くまもとICT)指数90%以上	各教科において南稜スタンダードに基づいた効果的なICT活用の充実を図る。	B	○教師のKI(くまもとICT)指数は84%であった。職員研修の場等を通して授業での実践へとつながるICTの活用について考えていくとともに、限られた学習時間を効率的に運用する観点からもICTの活用を図っていく。

	学習習慣	欠席防止	13クラス中8クラスで年間出席率98%以上	各部と出欠状況の共有を図るとともに、担任や学年団を中心に、家庭と連携した登校支援を充実させる。	B	○13クラス中2クラスが98%以上を達成した。学校全体としては94.7%(12月末)で昨年度より1.4P下回った。引き続き学習意欲の更なる喚起、及び不登校傾向生徒への継続的な対応を実施していく。
キャリア教育 (進路指導)	進学・就職支援	進路目標の達成	進学・就職とも、志望先への合格・内定100%	希望調査と面談による適正な選択を支援する。	A	進路活動に真剣に取り組むことで、生徒は進路目標を達成させ、希望者全員が合格内定した。
	定着指導	就業の継続	1年以内の早期離職率15%以下。	3年生に早期離職防止のための講話を行う。	A	令和6年3月卒業生で1年以内の離職者は3名(4.6%)。前年度の7名(10.1%)よりも少なかったが、入社後間もない離職があった。
生徒指導	生徒の自発的・主体的な成長や発達を支える指導	生徒が南稜高校の一員として役割を担い持てる能力を発揮して、協働し、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ学習活動の充実を図る	○社会的資質・能力の育成。 ○「私は学校行事や部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している」生徒80%以上。	生徒が学校行事等の特別活動に積極的に関わられるよう、生徒主体で活動できるよう生徒会活動を推進する。	B	結果は73.9%であった。体育大会、南稜祭と生徒会を中心に生徒が主体的に参加していたと感じたが、実際にはできていない生徒もいたということで、生徒全員が積極的に参加できるよう行事等のやり方についても検討していく。
			○自己指導能力の育成 ○「南稜高校に通うことは、自分の将来にとって意義があると感じている」生徒90%以上。	集団や社会の形成者としての望ましい態度や行動の在り方を学ぶ場として体育大会等の特別活動を活用し、事前学習、事後学習を用いて、集団としての連帯感を高める。	A	結果は91.9%であった。意義があると感じているものの、行事や部活に積極的に参加している生徒は7割であった。進路だけでなく、行事や部活、学校生活を通して成長を促し、南稜高校へ通うことへの意義をさらに高めたい。

人権教育の推進	自他の大切さを認め、豊かな人権感を育てる集団づくりの推進	社会の変化に対応して主体的に判断するため、よりよい生き方を選ぶ上で必要な、選択基準ないし判断基準を育成する。	○「私は南稜高校での人権教育をとおりて他人を思いやる心を持ち、人に優しく接しようとする思いが強くなった」85%以上。	○6月の人権教育LHR、11月の人権教育講演会の実施を通して人権意識の深化を図る。 ○1年次の至誠寮短期宿泊研修を通して集団の中で、よりよい人間関係を自主的実践的に形成する力を育成する。	A	「私は南稜高校での人権教育をとおりて他人を思いやる心を持ち、人に優しく接しようとする思いが強くなった」と感じている生徒92.3%（昨年度比+3.3%）であった。12月の人権週間の設定および自己肯定感を高め自尊感情を育む講演会の設定による教育的効果が見られている。また、2年間の至誠寮短期宿泊研修を通し、学科を超えた仲間集団の構築が見られる成果である。
		体育大会・南稜祭、講演会の振り返りの時間を設定し、実践を定期的に振り返り意識化を図るとともに結果を分析し、次の課題解決に生かす。	○「南稜高校に通うことは、自分の将来にとって意義があると感じている」生徒88%以上。	講演会など集団の中で、自己の生活の課題を発見しよりよく改善する力や自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力を育成する。	A	「南稜高校に通うことは、自分の将来にとって意義があると感じている」生徒91.9%（昨年度比+3.8%）であった。行事ごとに生徒会主体の振り返りの時間を設定することにより、当事者意識をもって行事に参加することによる達成感や向上心を生徒が実感できている。
いじめの防止等	いじめの未然防止・早期発見・事案対処	いじめをしない態度や能力を身につける働きかけを行い、いじめを生まない環境づくりをする	○「南稜高校の先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれる」88%以上	○学期はじめの個人面談やスクールサイン、生徒支援会議を通して生徒の把握と教員間の適切な情報共有を図る。	A	アンケート結果は89.2%であり概ね達成できた。しかし、心のアンケート等で職員が初めていじめを認知することもあったので、より相談しやすい環境づくりをしていく。
			○「南稜高校ではいじめや暴力などを見過ごさず早期に対応してくれる」90%以上	○情報集約担当者である学年主任を中心に、集約された情報を基に組織的にいじめ防止の対応を行う。また学期に1回アンケート等を実施して早期発見に努める。	B	結果は84.2%であった。情報集約担当者を中心に情報を集め会議等を行っているが、SNSなど教員の目の届かないところで起きているなど現代の難しい状況を感じる。日頃から生徒が相談しやすい環境づくりをしていく。

			○「南稜高校は落ち着いたよい学校である。」75%以上	○L H R を活用し、ストレス対処やアンガーマネジメント、S O S の出し方を級友と共有することでいじめが起きにくい環境づくりに努める。	B	結果は64.1%であった。SNSの使い方やソーシャルスキルトレーニングなどを実施したが、数回の実施ではなかなか日常生活に浸透しない現状がある。毎回の授業で生徒同士が対話するような機会を増やし、コミュニケーションスキルや対人関係のスキル向上を行っていきたい。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会の開催	総合型コミュニティ・スクールの実践	○地域や学校の実態を踏まえた授業や関係機関と連携した授業など特色ある授業に取り組んでいる教員85%以上	○学校運営方針の周知と共有を図る。 ○学校の課題や情報等の共有を図る。 ○学校の課題の解決に向けた協議に取り組む。	A	○授業においては94.1%の教員が特色ある授業に取り組んでいると回答し、生徒も96.7%、保護者も91.9%が肯定的回答であった。 ○運営協議会では、学校運営方針の周知や学校課題の解決に向けた意見交換ができた。
	地域連携	地域とともにある学校づくりの実践	○地域連携や地域活性化に関する活動への参加生徒70%以上	○地域イベントへの積極的参加と地域と連携した研究活動を推進する。 ○各学科で開放講座を実施する。	A	○10月にあさぎり町との包括連携協定を締結し、より一層、地域連携の強化を図った。 ○総合農業科、食品科学科、生活経営科において計4つの開放講座を実施しており、100名程度参加している。
		地域資源の活用	○「郷土に誇りを持っている」生徒90%以上 ○農業系学科・コースでの地域資源活用率100%	○地域特産物や人材を活用した授業展開による郷土愛の醸成及び新たな地域資源活用方法を提案する。	A	○地域特産物や人材を活用した授業展開によって郷土に誇りを持っている生徒は「他校にない特色ある授業を受けることができています」が96.7%と昨年度よりも上回る高い評価となった。 ○外部講師を招き、地域資源を活用した六次産業化に向けた学習内容を展開することができた。

特色ある学校作り	専門教育の充実	南稜スタンダード農場版の実践	○「専門教科に興味・関心がある」「学習内容を理解している」生徒95%以上	○基礎、基本を押さえた授業を実践する。 ○全教科でポートフォリオ評価を行う。	B	○授業評価において「積極的に参加している」は94.2%と昨年度を上回ったが「分かったという達成感がある」は89.3%と微減であった。 ○ポートフォリオ評価は、観点別評価の完成年度ということもあり、全科目実施することができた。
特別支援教育体制の充実	個別の教育支援計画と指導計画による指導の充実	人吉球磨地区特別支援教育ガイドラインに基づいた個別の教育支援計画・指導計画の作成と活用	○「南稜高校の先生は私の個性やニーズに合った指導や支援を行っている」85%以上	○月1回実施の生徒支援会議において個別の教育支援計画の検討を実施することで組織的な支援計画の運用を図る。 ○クラスごとの教科担当者会の開催を促すことで教科担当者の共通理解と手立ての実施を図る。	A	「南稜高校の先生は私の個性やニーズに合った指導や支援を行ってくれている」86.0%であった。月1回以上の生徒支援会議において個別の教育支援計画の検討を実施することで組織的な支援計画の作成ができた。しかし、14%の生徒に個に応じた合理的配慮が十分な支援が行えていない現状があり、今後特別支援コーディネーターの増員等を含めた校内支援体制の構築が不可欠である。

